

こころのたね

道徳だより

つながりある 心の教育を

校長 山本 秀一

道徳だより「こころのたね」は、2学期からスタートして今回が第3号となりました。

このことについて、少しばかり裏話を。

以前、ホームページ「馬込の日々」(9月3日)でお知らせしたように、この企画は本校道徳担当の教員の発案によるものです。「どの学年・学級においても常に質の高い道徳の授業が実践できるように」「道徳教育を学校だけのものと考えず、課題や思いを家庭・地域と共有して子どもたちを絵がかりで育てていけるように」といった願いが形となったものです。素晴らしいアイデアです。とはいえ、学校からのおたよりとして始めるからには、計画性と継続性が大切です。独りよがりもよくない。また、教職員の働き方改革を進める上で、新しい取組の立ち上げにはやや慎重になるのも本音のところではあります。このような経緯もあって、現在はホームページ限定の隔月発行という形で試行しているところなのです。

保護者・地域の皆様にはなかなか伝わりにくい、学校における日々の道徳教育。各教員がどのような道徳の授業を実践しているかなどを、子どもたちの現況や本校の道徳的課題などにも触れながらお知らせしていきます。この道徳だよりは、まだ誕生したばかりです。ぜひ皆様も、「こころのたね」に水や養分を与えてやってください。ご感想やコメント、家庭・地域等での取組などがそれに当たるものだと思います。子どもたちと一緒に、このおたよりも成長していけるとよいです。

5年生の道徳科の時間

主題名:個性を知る

今回は5年生です。「^{あきら}明の長所」という教材で学習をしました。個性を伸ばすことの意義を知り、自分の長所を一層向上させていこうとする意欲を養うことをねらいとした授業です。

あらすじ:隣に座っている友達のよいところを見つけて作文に書くことになりました。やす子の隣には明が座っています。しかし、明は学級いちばんの暴れん坊です。やす子はなかなか明の長所を見つけられませんでした。ふと2つの思い出が頭に浮かびました。それは明の意外な面でした。

教師の問い

「なぜ、やす子は明についての作文を書く意欲がわいてきたのでしょうか。」

子どもたちの考え

- ・最初は明が暴れんぼうでふざけ者だという悪いイメージがあったけど、思い出がうかんだ後、意外と優しいと感じたから、たくさんいいことが書けそうだと思って意欲がわいたのだと思います。
- ・明のいいところ、強さ、優しさを作文を通して、いろいろな人に知ってほしいからだと思います。

⇒裏面に続きます。

授業の後半では、主題名である、「個性を知る」について、あらためて子供たちの意見を聞き、振り返りをしました。

教師の問い

「個性を大切にすると、どういうことでしょう。」

子どもたちの考え

- ・個性を相手に認めてもらったり、相手の個性を認めたりすること。
- ・人のよさを見つけ、自分も他人とちがうということを知ること。



友達との意見交流タイム。
積極的に意見を伝え合っ
ていました。

今回の授業では、自分らしさについて振り返り、「明の長所」という教材を通して、自分の個性を伸ばしていくためには何が必要かを考えました。子供たちは、友達のよさや頑張りを見付けることが得意です。「〇〇さんのように勉強やスポーツができるようになりたい。」「〇〇さんのように誰からも信頼されるような人になりたい。」等の言葉をよく聞きます。しかし、自分の長所について、じっくりと考える機会はありません。この授業を通して、自分を見つめ、短所を改めつつ、長所を伸ばしていこうとする意欲を育てていきたいと考えています。子供たちの長所について、ご家庭でもお話される時間をもってくださると嬉しいです。

コラム 「いのち」

先日、ある本を読み、「いのち」について深く考えさせられました。著者である元校長先生が、娘さんを小児がんで亡くされた父親である鈴木中人氏と出会い、感銘を受け、命の授業づくりについて書かれた本です。その中で、印象に残った言葉に、「笑顔は、こだます～笑顔でいるから楽しくなる」があります。笑顔はこだまします。あなたが笑うと相手も笑ってくれる。相手が笑うと、あなたも笑顔になる。まず、自分から「すてきな笑顔」でいようと改めて思う機会になりました。

出典：『「いのちの授業」をつくる』（さくら社）鈴木中人、玉置崇 著